令和６年度全国学力・学習状況調査

結果分析

寒川町教育委員会

令和６年１２月

目　次

はじめに　寒川町教育委員会の姿勢　～変わらずに大切なこと～　・・・2

1　子どもたちを支える環境づくり

◇基礎・基本的な生活習慣について　・・・6

◇主体的な学習を支える基盤づくりについて　・・・12

2　資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

◇資質・能力を育むために　・・・18

・調査結果　国語

・調査結果　算数・数学

◇「非認知能力」と学力との関係性について　・・・27

3　今後に向けて

～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

◇家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと　・・・35

◇学校で育まれていること、これからも育んでいくこと　・・・36

◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、

これからも育んでいきたいこと　・・・38

◇教室を離れても学び続ける子どもの姿を　・・・38

寒川町教育委員会の姿勢　～変わらずに大切なこと～

全国学力・学習状況調査は平成 25 年度から、全国全ての小学校、中学校を対象に調査が行われてきました。令和６年度の調査の目的は次のとおりです。

【調査の目的】[1]
○ 学力や学習状況を把握して、分析すること
○ 教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図ること
○ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること
○ 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること

これとともに、変わらないこととしては、

【調査結果の取扱いに関する配慮事項】[2]
○ 本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であること
○ 序列化につながらない取組が必要であること

この部分について、令和６年度の全国学力・学習状況調査に関する実施要領でも、

【調査結果の取扱いに関する配慮事項】
○　調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること
○　学校における教育活動の一側面であること
○　序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること

この調査で分かることは学力の特定の一部分であること、この調査結果を受けて、序列化や過度の競争が生まれないよう配慮することが求められています。

＊「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」については、以降「実施要領」と表記する。

1【調査の目的】　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（令和６年度　実施要領より）

2【調査結果の取扱いに関する配慮事項】調査結果の公表にあたっては，本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部分であることなどを明示するとともに、序列化につながらない取組が必要。（平成 25 年度　実施要領より）

寒川町教育委員会では令和６年度についてもこのことをしっかりと受け止め、全国学力・学習状況調査を次のように取り扱い、寒川町の教育のより一層の発展を目指していきます。

【寒川町教育委員会として】

○ 序列化や過度な競争が生じないよう配慮します。
（調査結果については、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行いません。）

○ 学力の特定の一部分、教育活動の一側面であることに十分に留意します。
（他の市町村や過去の結果との数値のみの比較に終わらず、平均正答数や平均正答率の現状についてしっかりと受け止めていきます。）

○ 調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表します。

○ 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策を示していきます。

○ 調査結果の分析内容や改善方法については、寒川町ホームページに掲載するだけでなく、家庭版学校教育だより等で家庭への発信をし、家庭と共に学習について考えていきます。

また、次のことを踏まえて分析をしていきます。

【分析をする上での留意点】

○ 学校での教育実践と調査結果との関わりについて検証していきます。

○ 「これまでに取り組んで『強み』になったこと」を成果としています。

○ 「これまでにも取り組んできて、これからも取り組んでいきたいこと・より重点的に今後取り組みたいこと」を課題とします。

○ 寒川町の児童・生徒やその保護者の取組、また教職員の教育実践の方向性について、学習指導要領やこれから求められる力と関連付けていきます。

～学びの主役は子ども～

小学校は令和２年度、中学校は令和３年度から全面実施された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善[3]が求められ、教員が「何を教えるか」から児童・生徒を主語にした「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」に視点が変わりました。つまり、児童・生徒が学びの主役となり学習を進めることが求められています。

児童・生徒が主体的な学びを追究していくためには、子ども自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、課題を見い出し、見通しを持って粘り強く授業に取り組めるような教師の工夫や努力が必要です。また、対話的な学びを深めるためには、自分の考えを他者に伝えたい・話したいと思わせる場の設定や、有意義な話し合いをするための教師の働きかけ、子どもたちが行っていることの価値づけが大事となってきます。そして、１人１台端末等のＩＣＴ機器を活用し、情報を収集、思考の整理、意見の発信、他者との意見共有等、児童・生徒が有効に活用できる場面での使用が求められています。さらに、深い学びを追究してくためには、教科特有の見方・考え方を働かせて、教科の本質に迫る授業を構想する必要があります。このような日々の授業の積み重ねによって、子どもたちに、「生きる力」[4]を育むことができます。

寒川町では、学習指導要領の趣旨に則り、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の実現に向けて取り組んでいます。この取組の成果の一部は、児童質問紙調査や生徒質問紙調査の結果に表れています。

これまでの寒川町の取組では、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校においての授業改善の実現によって、着実に積み上げられてきています。

全国学力・学習状況調査の結果を学力の一部分として真摯に受け止め、学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために一緒になって取り組んでいきたいと考えております。

3（「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善）子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進する必要がある。

（学習指導要領解説　総則編より）

4【生きる力とは】今回の改訂においては，情報化やグローバル化といった社会的変化が，人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ，複雑で予測困難な時代の中でも，児童・生徒一人一人が，社会の変化に受け身で対応するのではなく，主体的に向き合って関わり合い，自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら，よりよい社会と幸福な人生を切り拓き，未来の創り手となることができるよう，教育を通してそのために必要な力を育んでいくことを重視している。

（学習指導要領解説 総則編より）

Ⅰ　子どもたちを支える環境づくり

～学校と保護者との協力～

◇基礎・基本的な生活習慣について

・基礎・基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めます

・計画的な学習によって、学びの定着が図られます

・課題に対して粘り強く取り組む

◇主体的な学習を支える基盤づくりについて

・主体的な学習を支える基盤づくり

・資質・能力の育成に向けて ICT を効果的に活用する

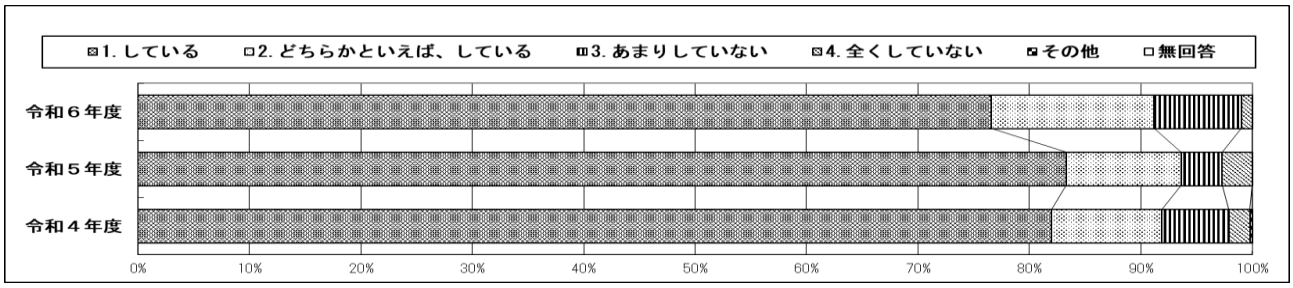
基礎・基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めます

子どもたちが健やかに成長していくためには、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。早寝・早起きを中心とした生活リズムを安定させるためには、家庭の支えが大きく関わってきます。家庭での協力を得て、児童・生徒が規則正しい生活を送ることができ、学校での学習においても集中力を発揮し、取り組むことができます。

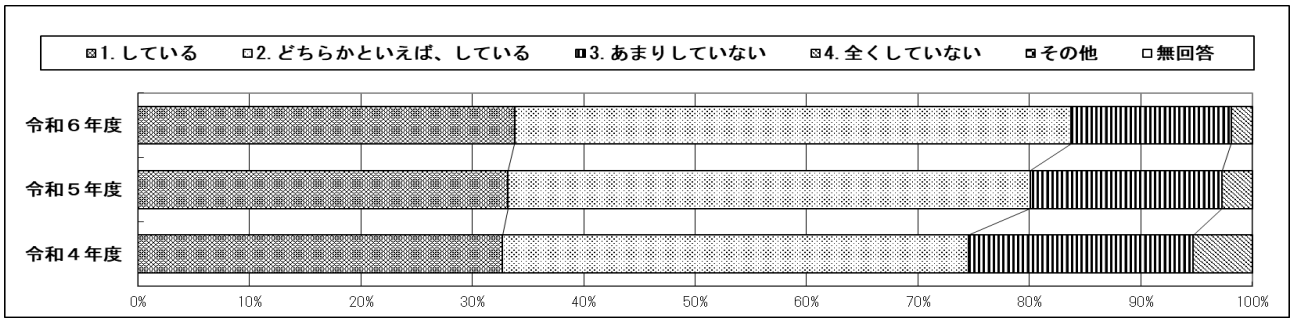
以下は児童・生徒質問紙調査での、児童・生徒の基本的生活習慣についての項目です。【児童・生徒質問紙（１）「朝食を毎日食べていますか」】、【児童・生徒質問紙（２）「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」】、【児童・生徒質問紙（３）「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」】については、多くの子どもたちが、毎日しっかりと朝ごはんを食べ、決まった時刻に起きる規則正しい生活を送っていることがわかります。小学校では、朝食を食べている児童の割合、決まった時刻に起きている児童の割合は前年度と比べると増加しています。規則正しい生活を送ることが習慣化することにより、子どもたちは学校での授業においても、集中して取り組むことができます。一方、中学校では、朝食を食べている生徒の割合が減少していることが気になります。今後も注意して見ていくことが必要です。これからも、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に取り組んでいきます。

【小学校児童質問紙】

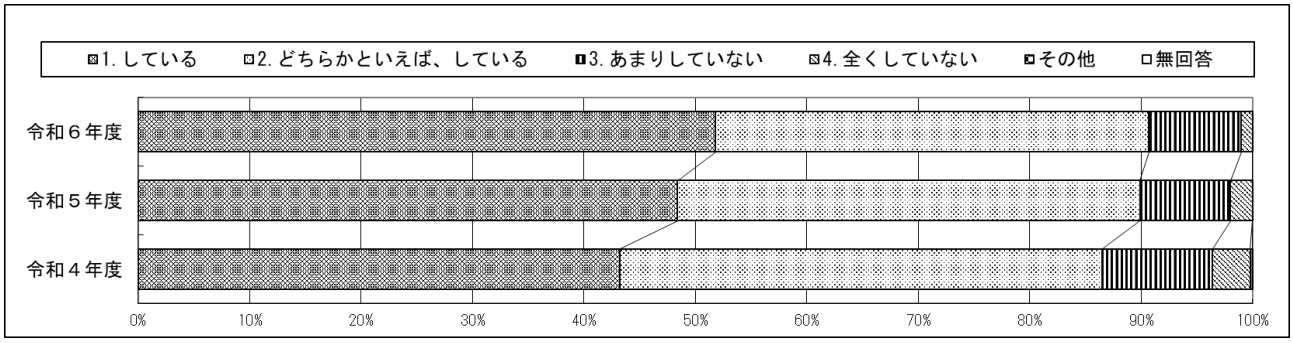
質問番号	質問事項											
（１）	朝食を毎日食べていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	76.6	14.6	7.8	1.0				91.2			0.0	0.0
令和５年度	83.3	10.3	3.7	2.7				93.6			0.0	0.0
令和４年度	82.0	9.9	6.0	1.9				91.9			0.2	0.0



質問番号	質問事項											
（２）	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	33.8	49.9	14.4	1.9				83.7			0.0	0.0
令和５年度	33.2	46.9	17.2	2.7				80.1			0.0	0.0
令和４年度	32.7	41.8	20.2	5.3				74.5			0.0	0.0

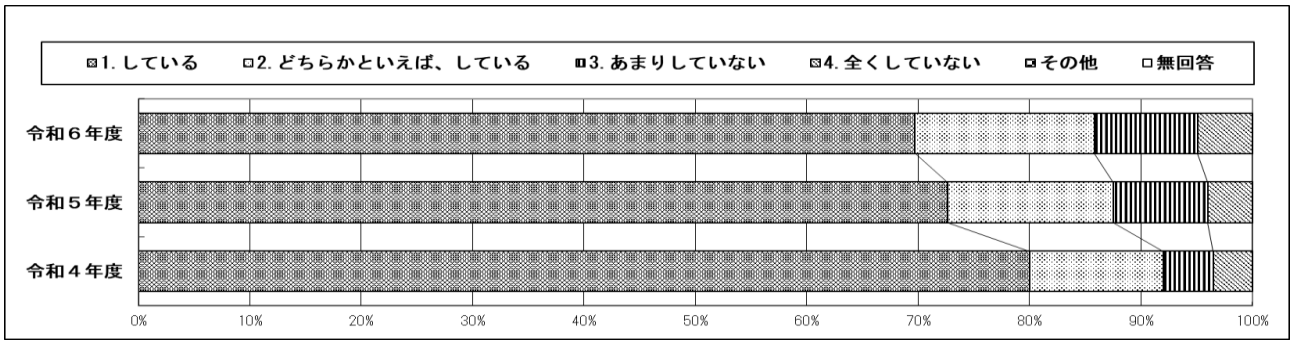


質問番号	質問事項											
（３）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	51.8	38.9	8.3	1.0				90.7			0.0	0.0
令和５年度	48.4	41.5	8.1	2.0				89.9			0.0	0.0
令和４年度	43.3	43.3	9.9	3.4				86.6			0.2	0.0

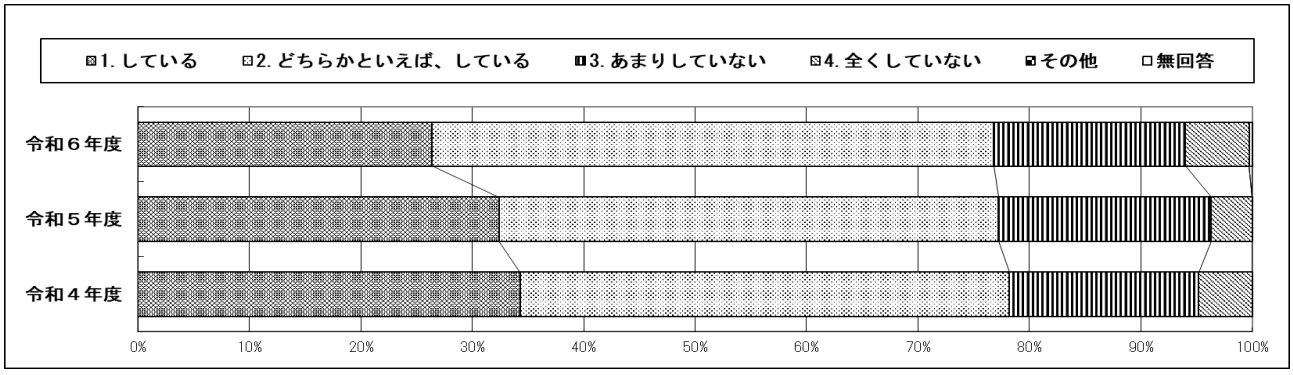


【中学校生徒質問紙】

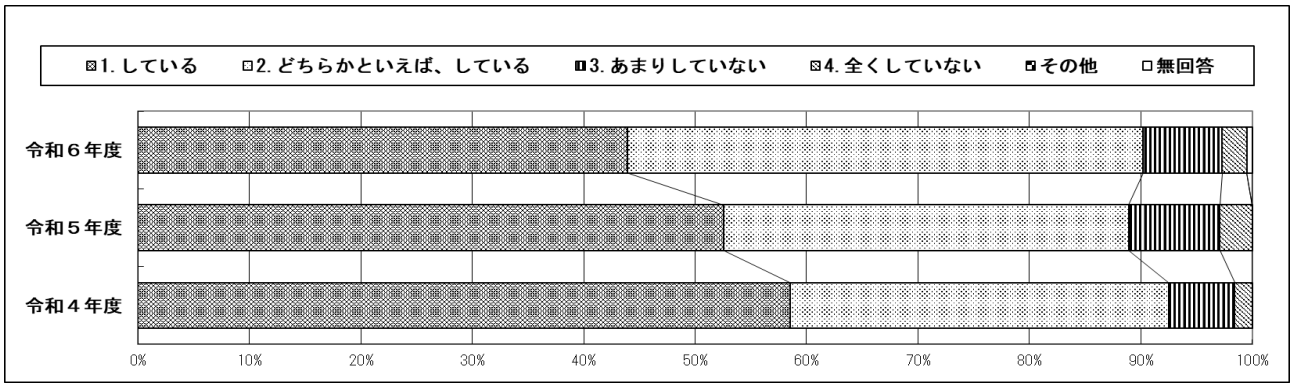
質問番号	質問事項											
（１）	朝食を毎日食べていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	69.8	16.1	9.3	4.9				85.9			0.0	0.0
令和５年度	72.7	14.9	8.5	4.0				87.6			0.0	0.0
令和４年度	80.1	12.0	4.5	3.5				92.1			0.0	0.0



質問番号	質問事項											
（２）	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	26.4	50.4	17.2	5.7				76.8			0.0	0.3
令和５年度	32.4	44.8	19.1	3.7				77.2			0.0	0.0
令和４年度	34.3	43.9	17.0	4.8				78.2			0.0	0.0



質問番号	質問事項											
（３）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	43.9	46.3	7.1	2.2				90.2			0.0	0.5
令和５年度	52.5	36.3	8.2	2.9				88.8			0.0	0.0
令和４年度	58.5	34.0	5.9	1.6				92.5			0.0	0.0



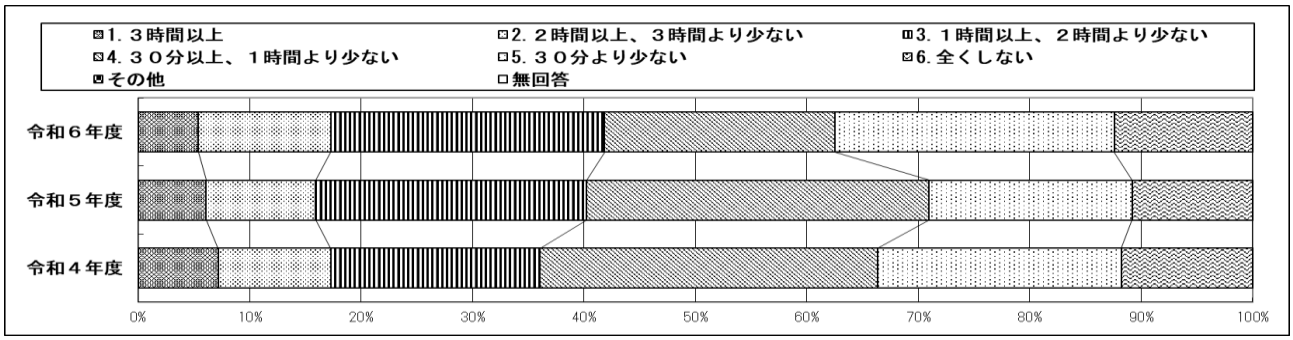
計画的な学習によって、学びの定着が図られます

今年度、【児童質問紙（２１）「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」】から、家庭学習において１時間以上勉強をしている児童については、年々増加の傾向が見られます。また【生徒質問紙（２１）「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」】においては、昨年度より学習時間がやや減っている傾向が見られます。

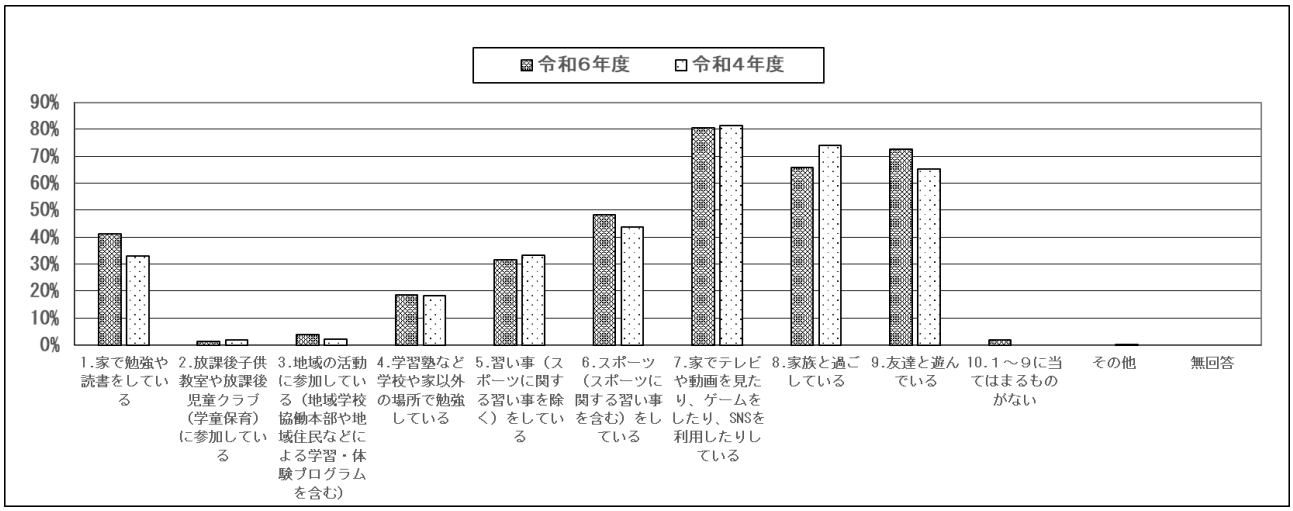
家庭において計画的に学習することで、学校で学んだことを習得することができ、また日々の積み重ねにより学習の定着が図られます。家庭で学習に取り組む習慣を身に付けることによって、学習習慣だけでなく、学習意欲にもつながります。学校から帰宅した後の時間の過ごし方について、今一度考える機会を家庭でもつことが大切です。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（２１）	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	その他	無回答
令和６年度	5.4	11.9	24.6	20.7	25.1	12.4					0.0	0.0
令和５年度	6.1	9.8	24.3	30.7	18.2	10.8					0.0	0.0
令和４年度	7.2	10.1	18.8	30.3	21.9	11.8					0.0	0.0

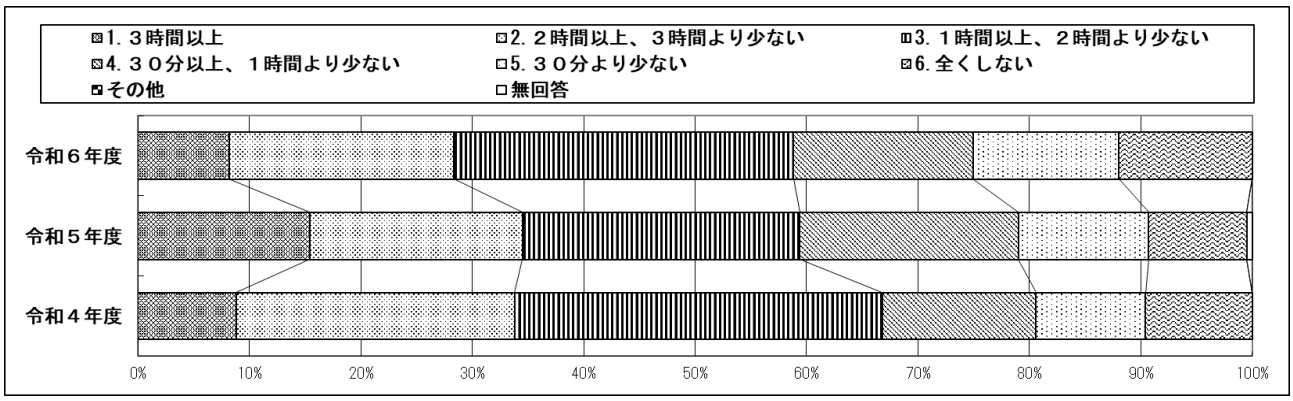


質問番号	質問事項											
（２６）	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	その他	無回答
令和６年度	41.1	1.2	3.9	18.7	31.6	48.2	80.5	65.7	72.7	1.9	0.0	0.0
令和４年度	32.9	1.9	2.2	18.3	33.2	43.8	81.5	74.0	65.4		0.2	0.0

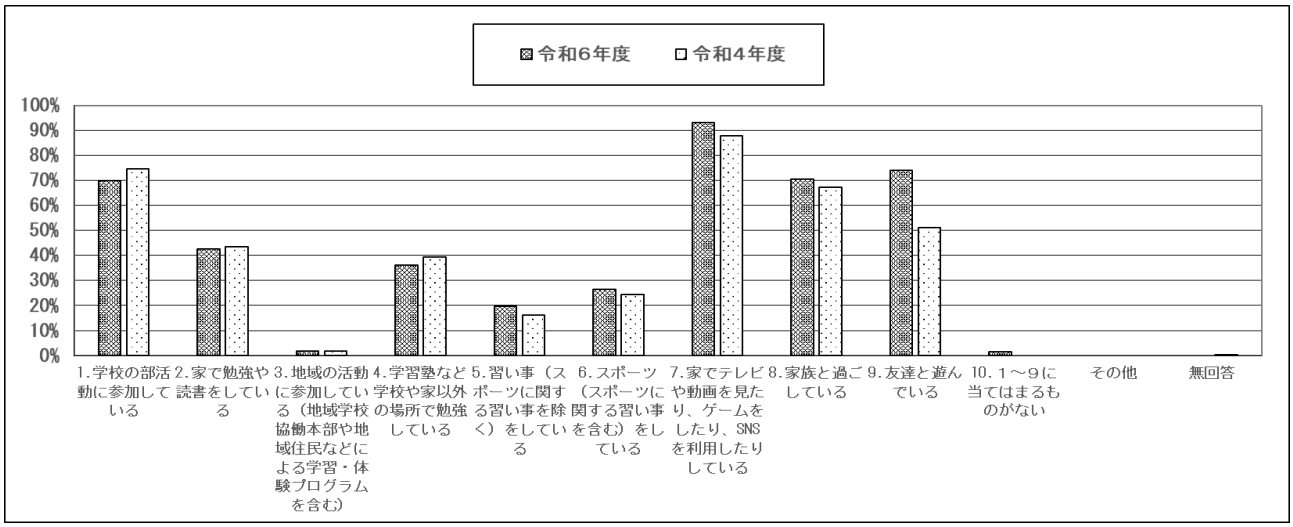


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（２１）	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	その他	無回答
令和６年度	8.2	20.2	30.5	16.1	13.1	12.0					0.0	0.0
令和５年度	15.4	19.1	24.9	19.6	11.7	8.8					0.0	0.5
令和４年度	8.8	25.0	33.0	13.8	9.8	9.6					0.0	0.0



質問番号	質問事項											
（２６）	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０	その他	無回答
令和６年度	70.0	42.5	1.9	36.2	19.6	26.4	93.2	70.6	74.1	1.4	0.0	0.0
令和４年度	74.7	43.4	1.9	39.4	16.2	24.5	88.0	67.3	51.1		0.0	0.3

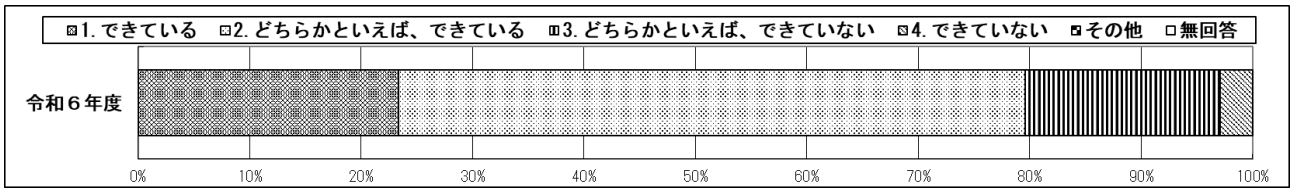


課題に対して多面的に取り組む

【児童・生徒質問紙（２０）「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」】という項目では、約８０％の児童・生徒が自分で学び方を考え、工夫しながら学習を進めており、課題に対して、分かるまで理解しようと粘り強く取り組んでいることが伺えます。理解するまでの過程については個人差があり、様々な手段や方法があります。本で調べる、ＩＣＴ機器を活用したりする等、自分に合った学び方を見つけ、個別最適な学びを行うことができるよう指導していきます。

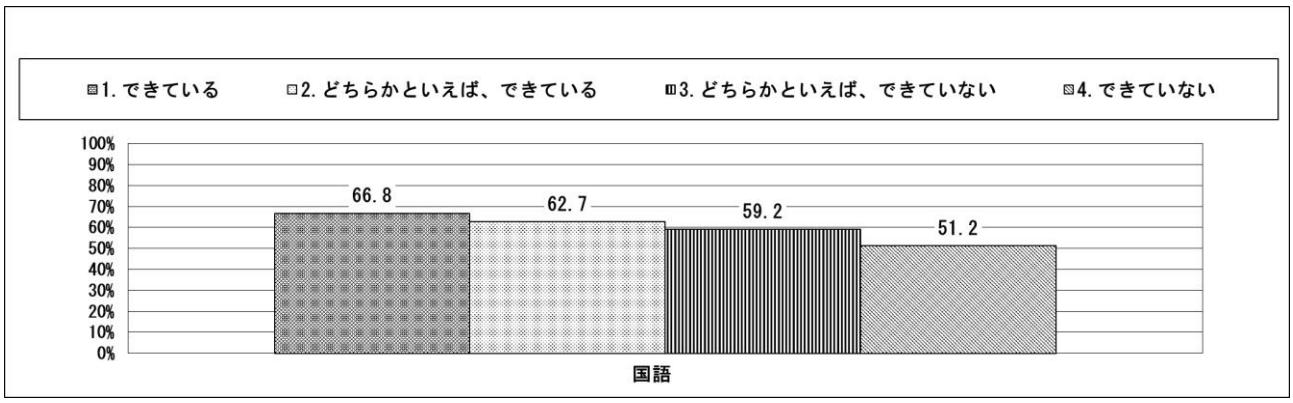
【小学校児童質問紙】

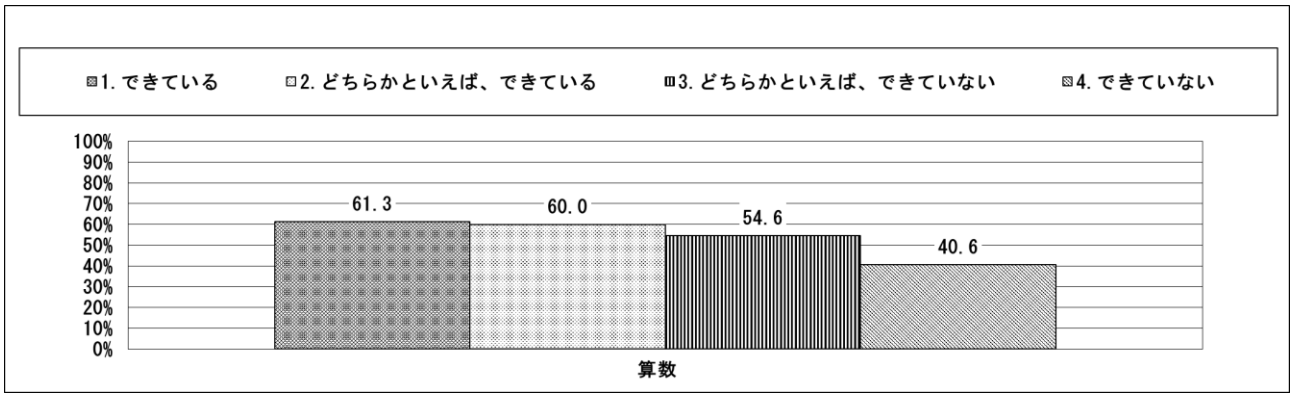
質問番号	質問事項											
（２０）	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	23.4	56.2	17.5	2.9				79.6			0.0	0.0



【クロス集計　小学校】

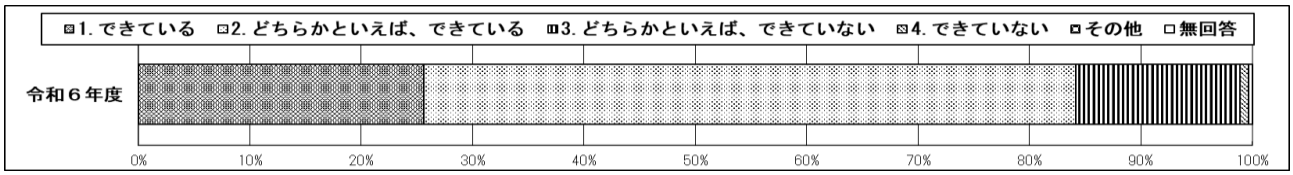
選択肢		児童数	児童数の割合（%）	平均正答率（%）	
				国語（１４問）	算数（１６問）
1	できている	95	23.8	66.8	61.3
2	どちらかといえば、できている	223	55.9	62.7	60.0
3	どちらかといえば、できていない	69	17.3	59.2	54.6
4	できていない	12	3.0	51.2	40.6
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		0	0.0	―	―
無回答		0	0.0	―	―
合計		399	100.0	62.8	58.8





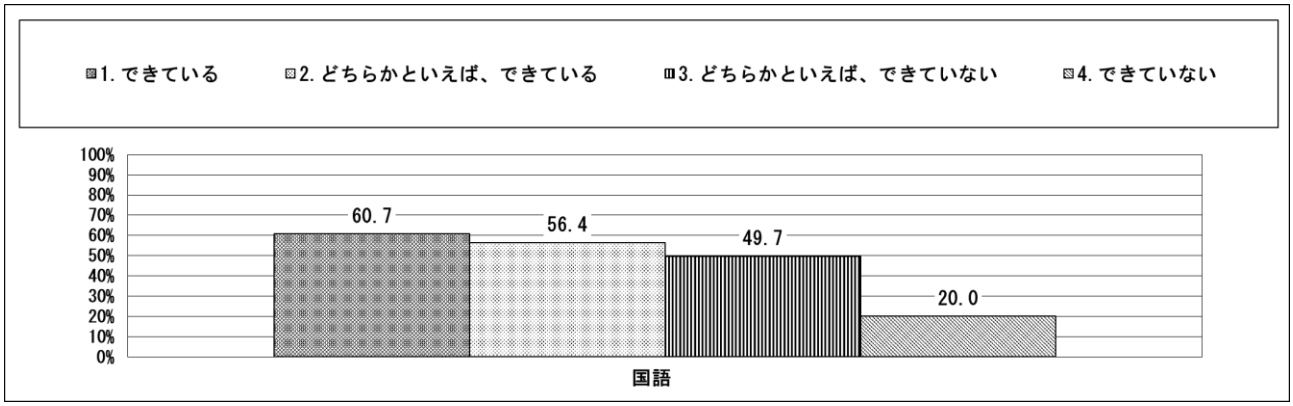
【中学校生徒質問紙】

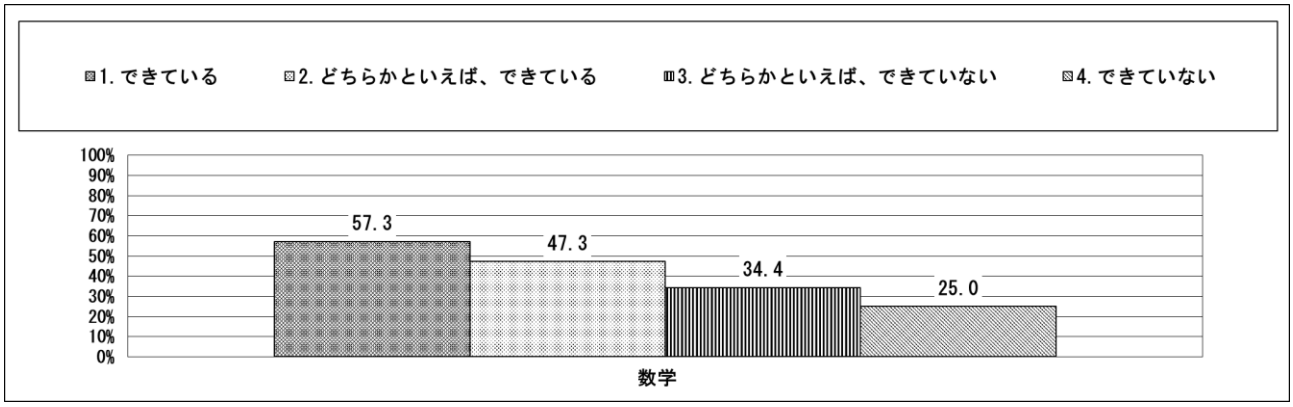
質問番号	質問事項											
（２０）	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	25.6	58.6	14.7	0.8				84.2			0.0	0.3



【クロス集計　中学校】

選択肢		生徒数	生徒数の割合（%）	平均正答率（%）	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	できている	91	25.8	60.7	57.3
2	どちらかといえば、できている	211	59.8	56.4	47.3
3	どちらかといえば、できていない	49	13.9	49.7	34.4
4	できていない	1	0.3	20.0	25.0
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		0	0.0	―	―
無回答		1	0.3	―	―
合計		353	100.0	56.5	48.0





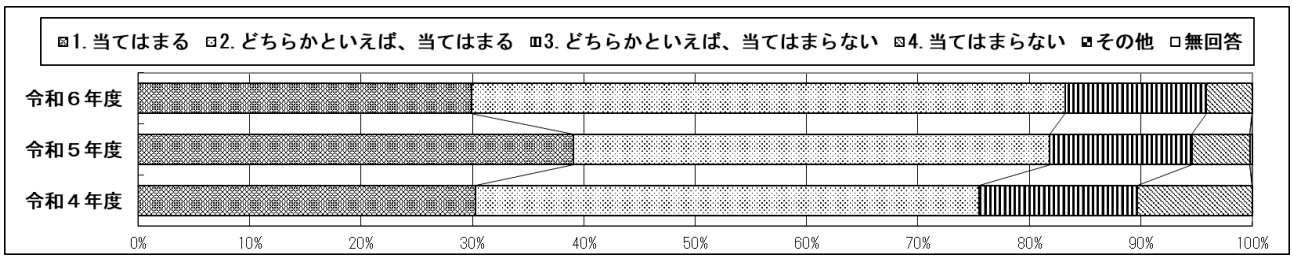
主体的な学習を支える基盤づくり

児童・生徒が相互によさを認め合い、励まし合い、支え合う人間関係は、学級・学校の基盤であり、生きる原動力となります。児童・生徒が充実した学校生活を送るためには、「自分のことが好き」と思う気持ち（自尊感情）を育み、学級・学校を構成する一員であるという所属感を持たせ、周りから認められているという充実感を味わわせるようにすることが必要です。

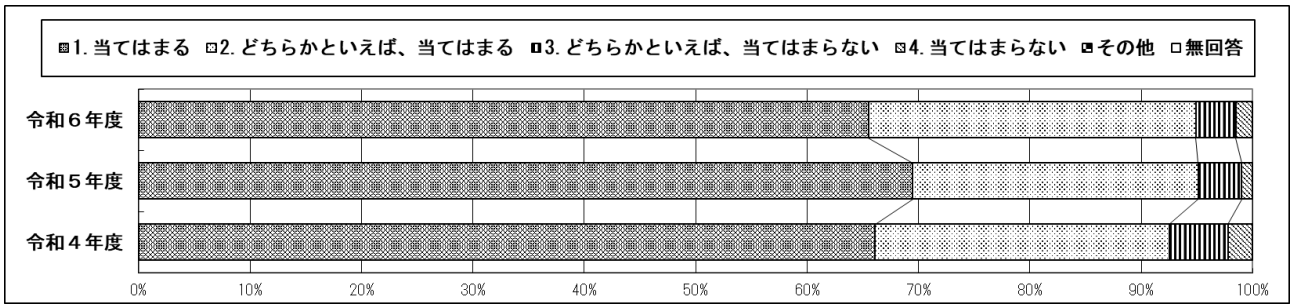
【児童・生徒質問紙（９）「自分には、よいところがあると思いますか」】では、多くの児童・生徒がよいところがあると回答しており、自尊感情が育まれるような学級・学校の環境の中で学校生活を送ることができる児童・生徒が増えてきています。また、【児童・生徒質問紙（１５）「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」】においても高い割合で当てはまると回答しています。これまで寒川町が各学級・学校において積極的に取り組んできた道徳教育や人権教育をはじめとする様々な教育活動の成果とも言えます。この強みを生かして、さらに学びの場をよい環境にできるよう取組を継続していくことが大切です。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（９）	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	29.9	53.3	12.7	4.1				83.2			0.0	0.0
令和５年度	39.1	42.8	12.8	5.2				81.9			0.0	0.2
令和４年度	30.3	45.2	14.2	10.3				75.5			0.0	0.0

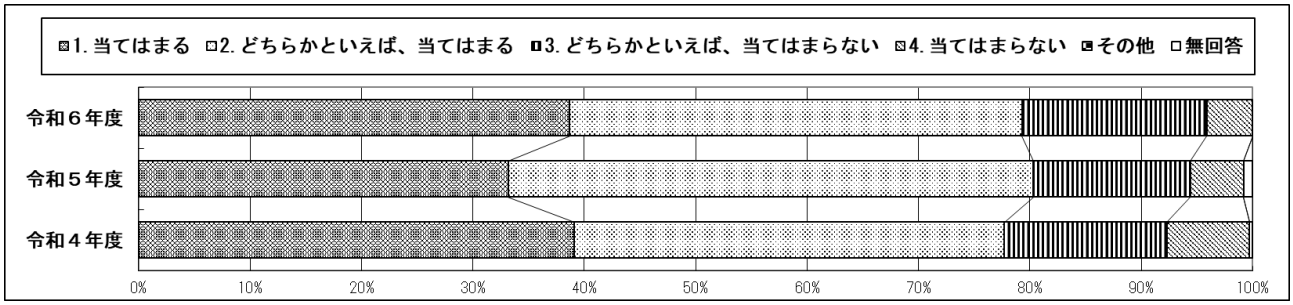


質問番号	質問事項											
（１５）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	65.5	29.4	3.6	1.5				94.9			0.0	0.0
令和５年度	69.5	25.6	3.9	1.0				95.1			0.0	0.0
令和４年度	66.1	26.4	5.3	2.2				92.5			0.0	0.0

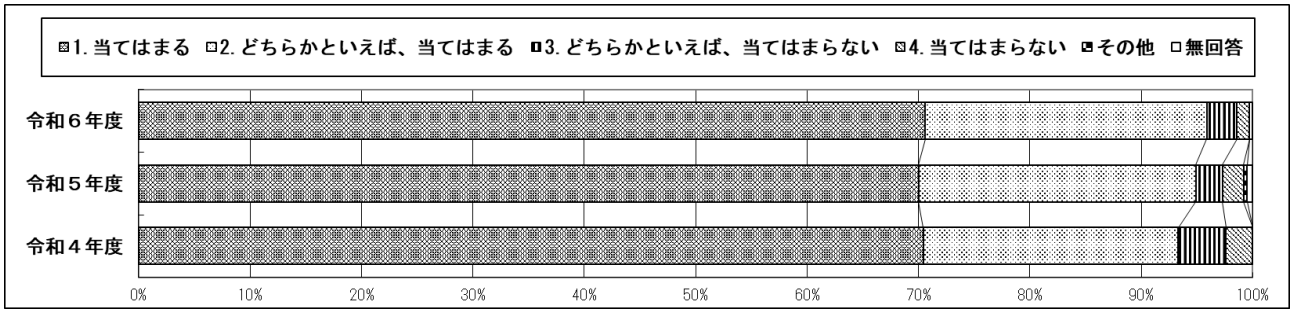


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（９）	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	38.7	40.6	16.6	4.1				79.3			0.0	0.0
令和５年度	33.2	47.2	14.1	4.8				80.4			0.0	0.8
令和４年度	39.1	38.6	14.6	7.4				77.7			0.0	0.3



質問番号	質問事項											
（１５）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	70.6	25.3	2.7	1.1				95.9			0.0	0.3
令和５年度	70.0	24.9	2.4	1.9				94.9			0.3	0.5
令和４年度	70.5	22.9	4.3	2.4				93.4			0.0	0.0



また、【児童・生徒質問紙（１７）「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」】では、楽しいと感じた児童・生徒が増えてきている傾向が見られます。

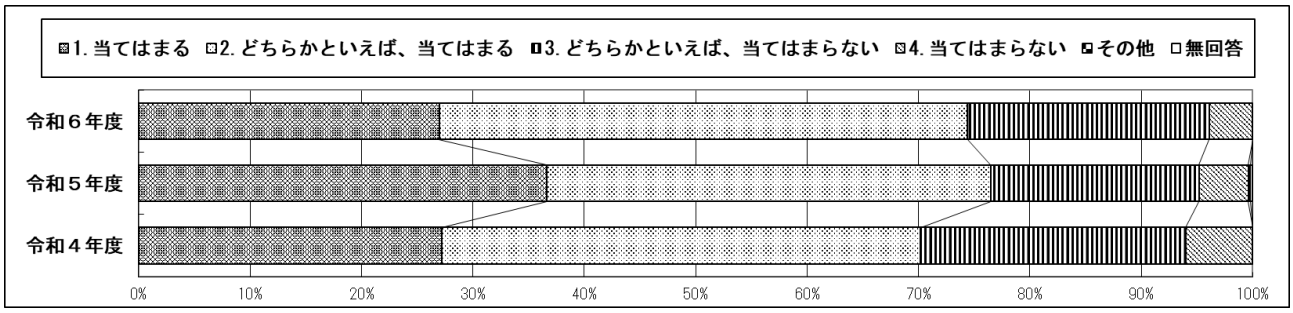
授業の中で、児童・生徒は自分の考えを発表したり、自分の意見とは異なる他者の意見を聞いたりすることで、学びがより広がりさらに深まっていきます。

１人１台のタブレット端末を活用した授業の展開により、友達の意見を学級全体で共有することができている表れが伺え、学習指導要領にもあります、「主体的・対話的で深い学び」を行うためには、まずは児童・生徒が自分の意見をもつこと、そして自分の意見を伝えることができる学級の環境が大切です。

今後も、学校生活の基盤となる、学級づくりに丁寧に取り組んでいきます。

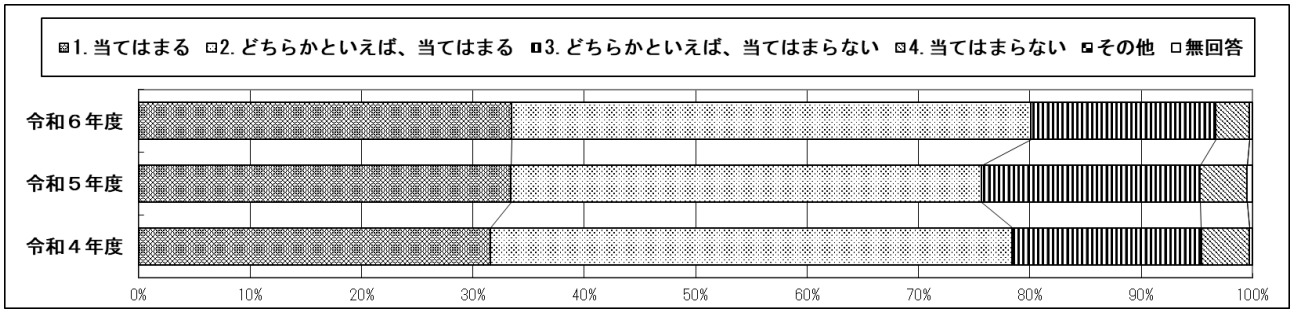
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（１７）	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	27.0	47.4	21.7	3.9				74.4			0.0	0.0
令和５年度	36.6	39.8	18.7	4.4				76.4			0.2	0.2
令和４年度	27.2	43.0	23.8	6.0				70.2			0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（１７）	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	33.5	46.6	16.6	3.0				80.1			0.0	0.3
令和５年度	33.4	42.2	19.6	4.2				75.6			0.0	0.5
令和４年度	31.6	46.8	17.0	4.3				78.4			0.0	0.3



資質・能力の育成に向けてＩＣＴ機器を効果的に活用する

小学校、中学校共に、【児童・生徒質問紙（２８－４）「５年生まで（１・２年生のとき）の学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（４）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」】や、【児童・生徒質問紙（２８－７）「５年生まで（１・２年生のとき）の学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（７）友達と協力しながら学習を進めることができる」】から、ＩＣＴ機器は、授業の中で学習の理解の手助けをするツールとして活用されており、ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて環境整備が進み、学校における授業改善も着実に進んできていることを示しています。

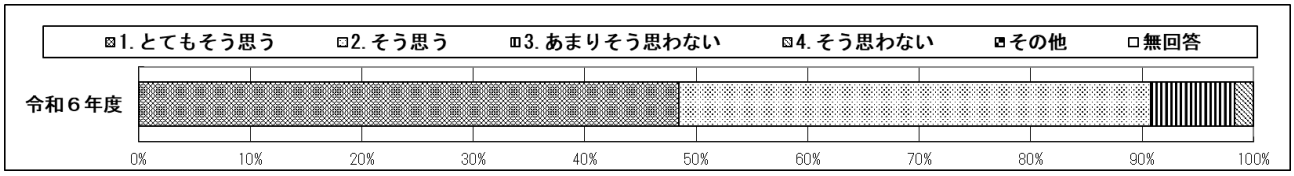
学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つに情報活用能力を位置づけ、各教科におけるＩＣＴ機器を活用した学習活動の一層の充実を目指しています。

しかし、ＩＣＴ機器の活用は、授業改善の一手段であるため、「ＩＣＴ機器を使うこと」が目的ではなく、ＩＣＴ機器の特性や強みを生かして、授業のねらいを達成させるために活用する「学びの支援ツール」という視点をもつことが大切です。

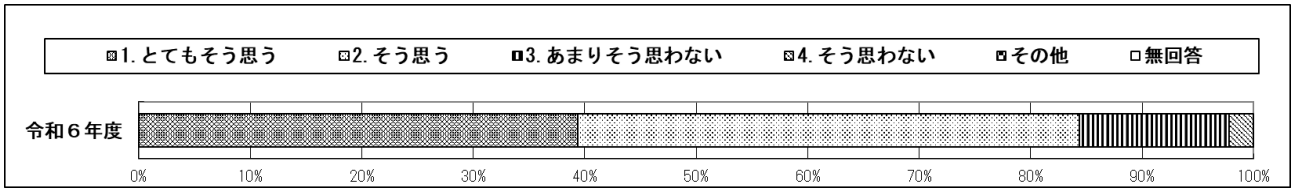
ＩＣＴを使って意見を共有した後には、もう一度自分自身の考えを深める時間を取り、再度考えをまとめて書くことで、深い学びとなります。また、深い学びを支える土台となるのは基礎的・基本的な学びの習得です。「漢字を書く」「計算問題を解く」などの基礎基本の土台があってこそ活用の力が積み重なっていきます。今後も、授業の中でより一層効果的にＩＣＴ機器を活用していく必要があります。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（２８－４）	５年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（４）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	48.4	42.3	7.5	1.7				90.7			0.0	0.0

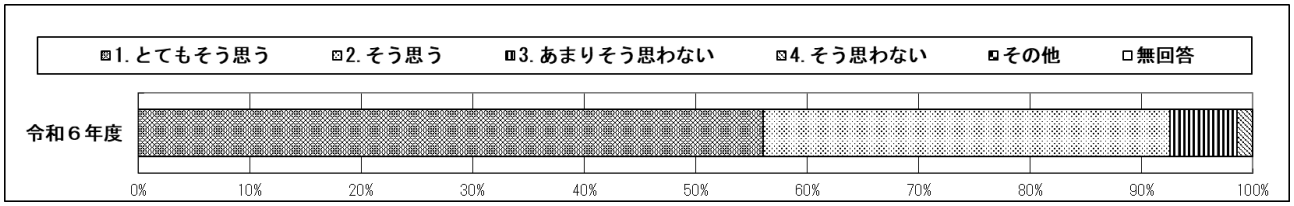


質問番号	質問事項											
（２８－７）	５年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（７）友達と協力しながら学習を進めることができる											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	39.4	45.0	13.4	2.2				84.4			0.0	0.0

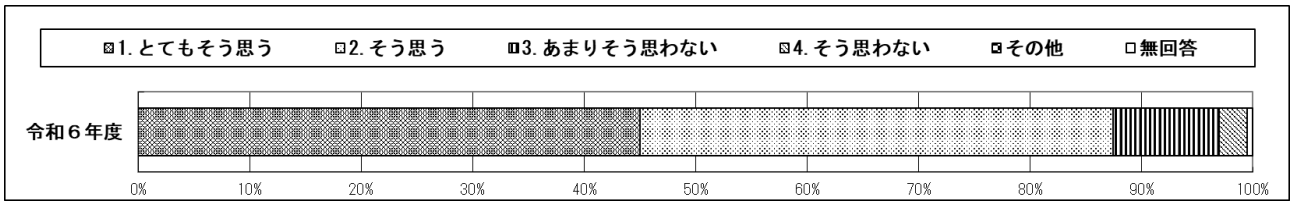


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（２８－４）	１、２年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（４）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	56.1	36.5	6.0	1.4				92.6			0.0	0.0



質問番号	質問事項											
（２８－７）	１、２年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（７）友達と協力しながら学習を進めることができる											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	45.0	42.5	9.5	2.5				87.5			0.0	0.5



２　資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

◇資質・能力を育むために

・調査結果　小学校　国語

中学校　国語

・調査結果　小学校　算数

中学校　数学

◇「非認知能力」と学力との関係性について

資質・能力を育むために　～令和の日本型学校教育に向けて～

これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成２９年３月に公示された学習指導要領[5]では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という３つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の３つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった３つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点であり、資質・能力を育むことが授業の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育んでいく必要性があります。

5【学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に，各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり，思考力，判断力，表現力等や学びに向かう力，人間性等を発揮させたりして，学習の対象となる物事を捉え思考することにより，各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し，児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については，中央教育審議会答申において，以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ，具体的な学習内容や児童の状況等に応じて，これらの視点の具体的な内容を手掛かりに，質の高い学びを実現し，学習内容を深く理解し，資質・能力を身に付け，生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められてい

① 学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

② 子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（　小学校学習指導要領総則第 3-１(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

また、令和３年１月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育[6]』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、学習指導要領に示す、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成をめざし、そのツールとしての ICT を基盤としながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がセットで重視されています。児童生徒一人ひとりの興味関心や発達の状況等を踏まえて、それぞれの個性を伸ばし資質・能力を高めつつ、学級集団や学習集団において、子ども同士や子どもと教師、子どもと地域の方々など、多様な他者との関わりを通して、よりよい学びを創り出すために、学び合い、高め合う関係性を大切にできるような授業づくり・学級づくりを目指していきます。

---

6 社会の変化が加速度を増し，複雑で予測困難となってきている中，子供たちの資質・能力を確実に育成する必要があり，そのためには，新学習指導要領の着実な実施が重要であるとした。その上で，我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ，新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ，2020 年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし，その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学び」とした。ここでは，ICT の活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により，「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と，これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた，「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。
（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）より）

このようなことから、学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成３０年度までの、A 問題【主として知識】、B 問題【主として活用】を問う設問構成から、これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと平成３１年度から変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。「知識」と「活用」はそれぞれ分かれて育成されるのではなく、知識を活用した学習を通して知識の定着や知識理解の深まりが図られると考えます。つまり、知識と活用が相互に関連し合いながら資質・能力が育成されていきます。学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能をいかに活用させて「生きて働く知識・技能」を培うかが求められています。

調査結果 小学校 国語

令和６年度　調査結果　小学校［国語］

分類		区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率(%)	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			14	62	-5.7	67	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	55.4	-9.0	62.3	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	85.3	-1.6	87.7	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	67.2	-7.4	73.3	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.1	-1.7	60.3	59.8
		B 書くこと	2	61.1	-7.3	68.3	68.4
		C 読むこと	3	67.2	-3.5	69.6	70.7

令和5年度　調査結果　小学校【国語】

分類		区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			14	63	-4.2	66.0	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	66.4	-4.8	70.1	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.5	-1.9	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.1	-4.5	70.4	72.6
		B 書くこと	1	22.2	-4.5	25.6	26.7
		C 読むこと	3	65.5	-5.7	70.4	71.2

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が１０ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が５ポイント以上（以下同様）

調査結果 中学校 国語

令和６年度　調査結果　中学校［国語］

分類		区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率(%)	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			15	56	−2.1	59	58.1
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	54.9	−4.3	60.0	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	56.9	−2.7	60.3	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	83.0	7.4	74.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.5	−1.3	59.9	58.8
		B 書くこと	2	66.3	1.0	66.8	65.3
		C 読むこと	4	43.8	−4.1	48.5	47.9

令和5年度　調査結果　中学校【国語】

分類		区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			15	64	−5.8	70	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	53.8	−13.7	66.3	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	58.7	−4.7	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.0	−3.7	71.7	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.9	−2.3	82.5	82.2
		B 書くこと	2	57.8	−5.4	64.6	63.2
		C 読むこと	4	59.3	−4.4	64.2	63.7

調査結果 小学校 算数

令和６年度　調査結果　小学校［算数］

分類	区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率(%)	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		16	58	−5.4	64	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	60.7	−5.3	66.5	66.0
	B 図形	4	60.5	−5.8	66.2	66.3
	C 測定	0				
	C 変化と関係	3	46.5	−5.2	54.5	51.7
	D データの活用	4	56.2	−5.6	62.0	61.8

令和5年度　調査結果　小学校【算数】

分類	区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		16	58	−4.5	63.0	62.5
学習指導要領の領域	A　数と計算	6	61.5	−5.8	67.1	67.3
	B　図形	4	46.1	−2.1	50.0	48.2
	C　測定	0				
	C　変化と関係	4	66.6	−4.3	72.3	70.9
	D　データの活用	3	59.6	−5.9	65.2	65.5

調査結果　中学校　数学

令和６年度　調査結果　中学校［数学］

分類	区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率(%)	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		16	48	−4.5	54	52.5
学習指導要領の領域	A　数と式	5	47.8	−3.3	54.3	51.1
	B　図形	3	33.2	−7.1	42.5	40.3
	C　関数	4	57.6	−3.1	61.8	60.7
	D　データの活用	4	48.3	−7.2	55.6	55.5

令和5年度　調査結果　中学校【数学】

分類	区分	対象問題数（問）	寒川町 平均正答率	寒川町 全国との差	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		15	43	−8.0	52	51.0
学習指導要領の領域	A　数と式	5	53.5	−9.5	65.2	63.0
	B　図形	3	24.4	−8.8	36.1	33.2
	C　関数	4	45.3	−5.9	51.7	51.2
	D　データの活用	3	43.6	−4.9	47.4	48.5

【参考】各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意。

〈出典〉令和６年度全国学力・学習状況調査　報告書（文部科学省　国立教育政策研究所）

◇ 国語について

ここ数年課題である「言葉の特徴や使い方に関する事項」について分析していきます。

【小学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率（%）	全国との差	無解答率（%）
１二（１）	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	○			72.1	-3.8	0.0
２三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる		○		28.1	-15.3	22.0
２三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）			○		63.3	-12.7	11.2
３一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	○			58.2	-4.1	2.4

【中学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率（%）	全国との差	無解答率（%）
３二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	○			50.5	-3.3	0.5
３三	漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる		○		61.8	-7.0	13.2
４一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	○			52.5	-2.4	1.6

問題　小学校２三ア・イ
【高山さんの文章】の下線部ア・イを、漢字を使って書き直す。

この問題の趣旨は、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」ことです。第５学年及び第６学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことと学習指導要領で示されています。

下線のア『きょうぎ』では、『競技』、下線のイ『なげる』では、『投げる』が解答となります。

問題　中学校３三
線部のひらがなを漢字に直す。

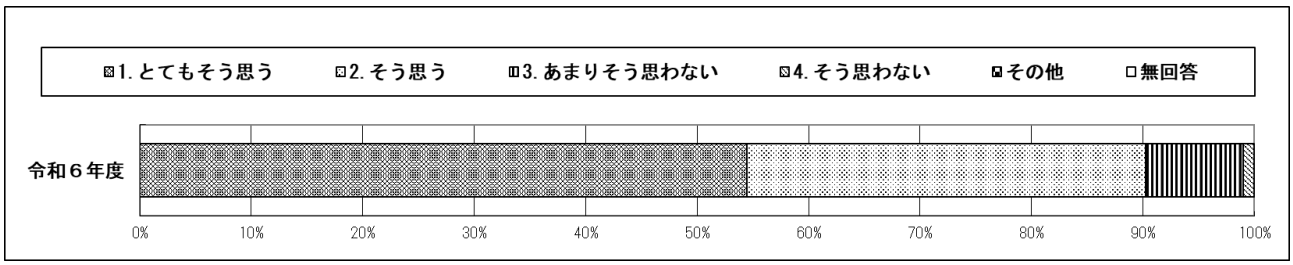
この問題の趣旨は、「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」ことです。中学第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことと学習指導要領で示されています。

線部の『みちたりた』では、『満ち足りた』が解答となります。

寒川町では児童・生徒共に ICT 機器の活用が進んでおり、【児童・生徒質問紙（２８－２）「５年生まで（１・２年生のとき）の学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」】から、約９０％以上の児童・生徒が、課題等に対して個々に調べ、粘り強く取り組むことができるようになってきています。しかしながら、漢字等が書けるように覚える・記憶するまで取り組めていないことが伺えます。ICT 機器の活用により漢字はひらがなを変換すれば出てきますが、漢字を読むことや文や文章の中で使うことができるよう、意図的に手で書き、覚えるような活動の時間を確保する必要があります。

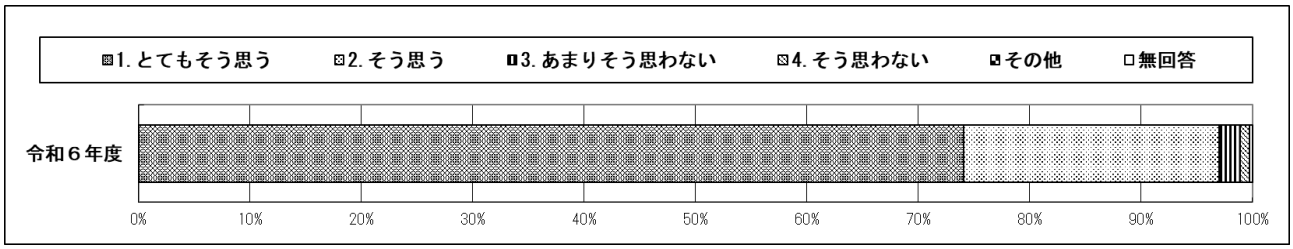
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（２８－２）	５年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	54.5	35.8	8.8	1.0				90.3			0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（２８－２）	１、２年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。 （２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる											
選択肢	１	２	３	４	５	６	７	当てはまる(1+2)	９	１０	その他	無回答
令和６年度	74.1	22.9	1.9	0.8				97.0			0.0	0.3



◇ 算数・数学について

近年課題である「データの活用」について分析していきます。

【小学校　算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率（％）	全国との差	無解答率（％）
５（１）	円グラフから、２０２３年の桜の開花日について、４月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる		○		76.8	-4.0	2.9
５（２）	示されたデータから、１９６０年代のＣ市について、開花日が３月だった年と４月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる		○		69.2	-4.1	6.8
５（３）	折れ線グラフから、開花日の月について、３月の回数と４月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について３月の回数と４月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる			○	37.7	-6.3	18.1
５（４）	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる		○		41.1	-8.2	5.6

問題　小学校５（３）

折れ線グラフから、開花日の月について、３月の回数と４月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について３月の回数と４月の回数の違いを書く。

この問題の趣旨は、**「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」**ことです。正答は、①３月の回数と４月

の回数の違いが最も大きい年代が２０００年代であることを表す言葉、②２０００年代の３月の回数と４月の回数の違いが６回であることを表す数、の２つの条件を記述する必要があります。正答例としては、「３月の回数と４月の回数の違いが最も大きい年代が２０００年代で、２０００年代の３月の回数と４月の回数の違いは６回です。」ですが、約１８％の児童が無回答であり、正答率が約３７％と最も正答率が低い問題となっています。①の「３月の回数と４月の回数の違いが最も大きい年代が２０００年代であること」は２つの折れ線グラフの開き具合から見つけやすく、表現もしやすい。しかし、②の「３月の回数と４月の回数の違いが６回であることを表す数」については、３月が８回、４月が２回であることから違いは６回であるが、②の回数を書かなかった児童が多く見られました。学習指導に当たっては、日常の生活の場面のデータをグラフに表し、グラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現することができるようにすることが大切であり、グラフのどの部分やどの数値を基に判断したのかを、他者に分かるように伝える活動等を行うことが大切です。

【中学校　数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率（％）	全国との差	無解答率（％）
5	２枚の１０円硬貨を同時に投げるとき、２枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる		○		64.7	−8.4	4.7
7（1）	障害物からの距離が１０ｃｍより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、１０ｃｍの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる		○		62.8	−11.5	7.2
7（2）	車型ロボットについて「速さが段階１から段階５まで、だんだん速くなるにつれて、１０ｃｍの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、５つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			○	21.2	−4.7	33.3
7（3）	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	○			44.6	−3.9	0.6

問題　中学校７（１）

障害物からの距離が１０ｃｍより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、１０ｃｍの位置から進んだ距離の最頻値を求める。

この問題の趣旨は、「**与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる**」

ことです。最頻値とは、データの中で、最も頻度が高い値（一番多く出現している値）のことであり、この問題では、２０個の値のうち『１．９』が７個と一番多く出現しているため、正答は１．９となります。生徒の中には、最頻値の意味がわからず、最小値や最大値、中央値を答えた回答が見られました。学習の指導に当たっては、代表値の必要性と意味を理解し、目的に応じてデータを収集して分析し、データの傾向を読み取る活動において、データの代表値を求めることができるように指導していくことが大切になります。この問題においては、１０ｃｍの位置から進んで止まる距離の傾向について説明する場面を設定し、小学校で学習した内容を振り返り、最頻値の意味について再度確認を行うことで、最頻値を求める思考の定着が図られると考えられます。

◇　非認知能力と学力との関係性について

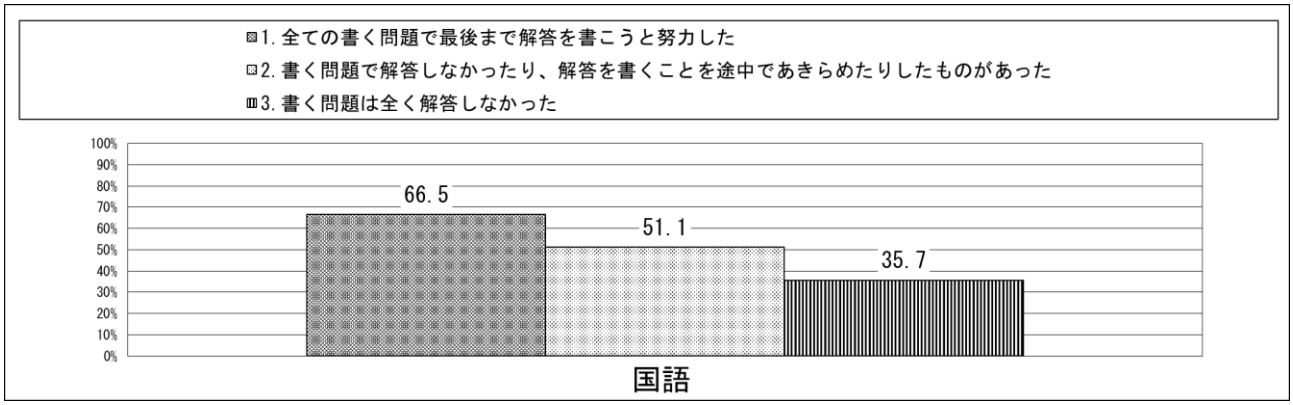
計算力や語学力といった学力テストなどで測れる能力のことを「認知能力」と呼ぶ一方、コミュニケーション力や意欲、忍耐力など、数値での測定が難しい能力のことを「非認知能力」と呼びます。OECD（経済協力開発機構）によると、「非認知能力」は社会情動的スキルであると位置づけられ、『目標の達成（忍耐力・自己抑制・目標への情熱）』『他者との協働（社交性・敬意・思いやり）』『情動の制御（自尊心・楽観性・自信）』の３つの要素を軸としています。

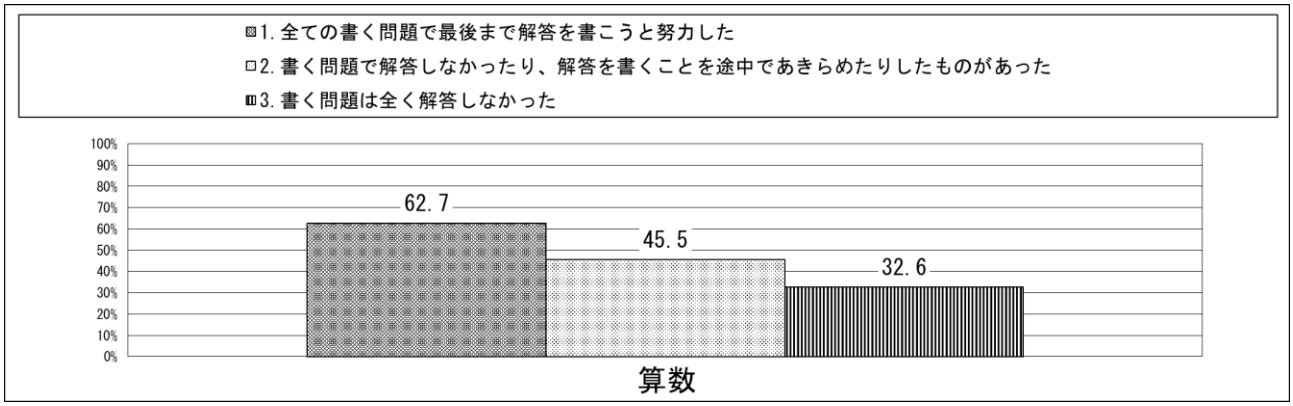
「非認知能力」の一つ、目標の達成（やり抜く力）との関係性については、【児童・生徒質問紙（国１、算１）「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」「今回の算数（数学）の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（説明する）問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」】から、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童・生徒は、解答を書くことを途中であきらめたりした児童・生徒と比べ、国語と算数・数学ともに、約１０％以上平均正答率が高い結果が見られました。自分の目標を目指してやり抜く力は、学習評価の観点になっている「主体的に取り組む態度」の２つの側面のうちの一つ、粘り強く取り組もうとする側面であり、児童・生徒が主体的な学びの過程に向かっているかという内面に着目し、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度として現れます。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項
（国１）	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

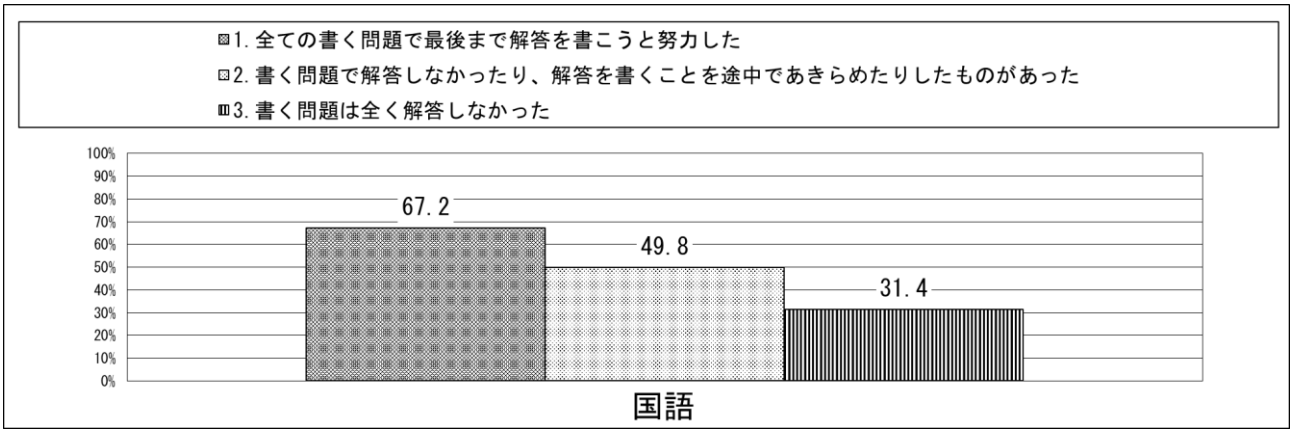
選択肢		児童数	児童数の割合（%）	平均正答率（%）	
				国語（１４問）	算数（１６問）
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	312	76.3	66.5	62.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	81	19.8	51.1	45.5
3	書く問題は全く解答しなかった	9	2.2	35.7	32.6
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		1	0.2	―	―
無回答		6	1.5	―	―
合計		409	100.0	62.3	58.1

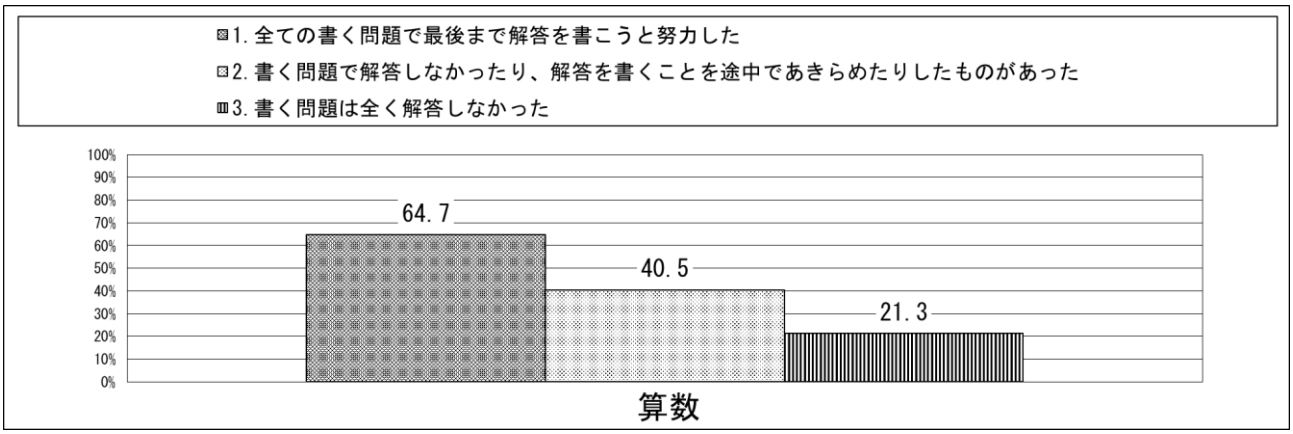




質問番号	質問事項
（算１）	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		児童数	児童数の割合（%）	平均正答率（%）	
				国語（１４問）	算数（１６問）
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	303	74.1	67.2	64.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	95	23.2	49.8	40.5
3	書く問題は全く解答しなかった	5	1.2	31.4	21.3
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		1	0.2	―	―
無回答		5	1.2	―	―
合計		409	100.0	62.3	58.1

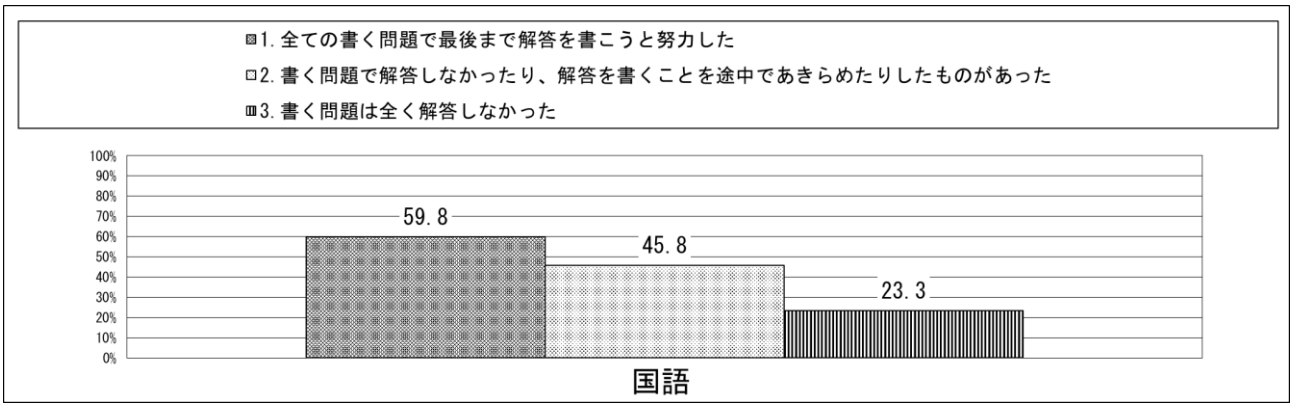


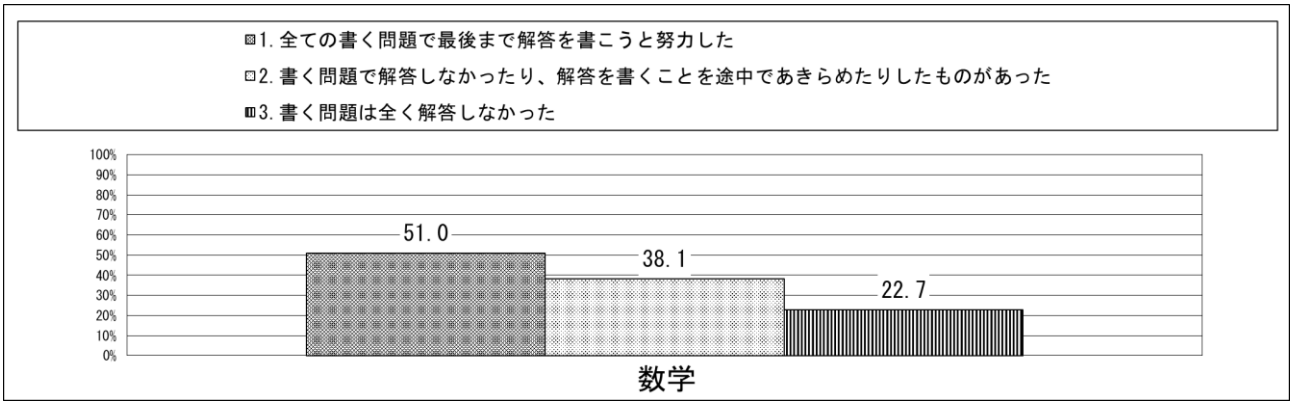


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項
（国１）	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

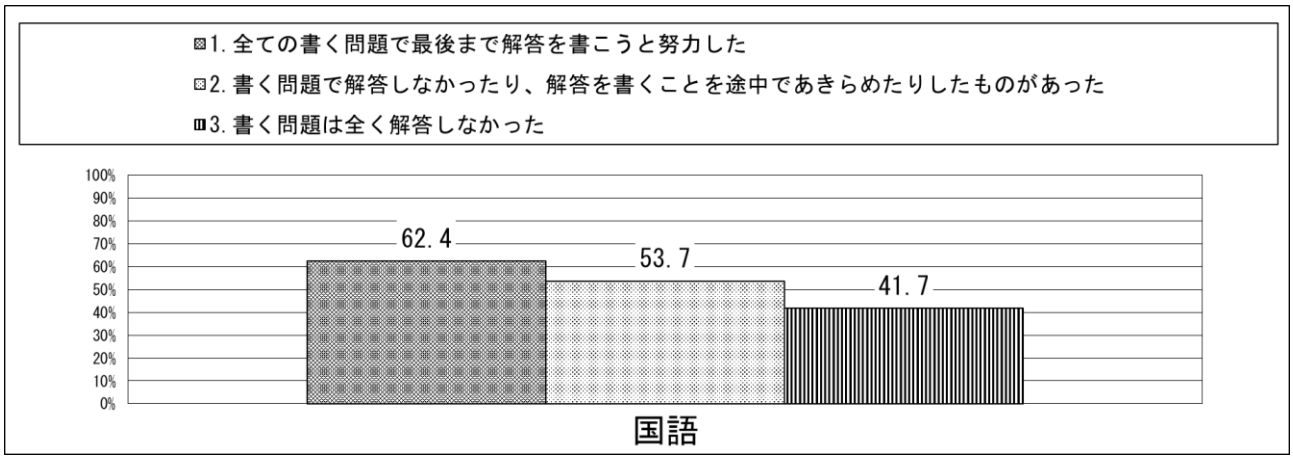
選択肢		生徒数	生徒数の割合（%）	平均正答率（%）	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	282	77.5	59.8	51.0
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	73	20.1	45.8	38.1
3	書く問題は全く解答しなかった	8	2.2	23.3	22.7
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		0	0.0	―	―
無回答		1	0.3	―	―
合計		364	100.0	56.1	47.7

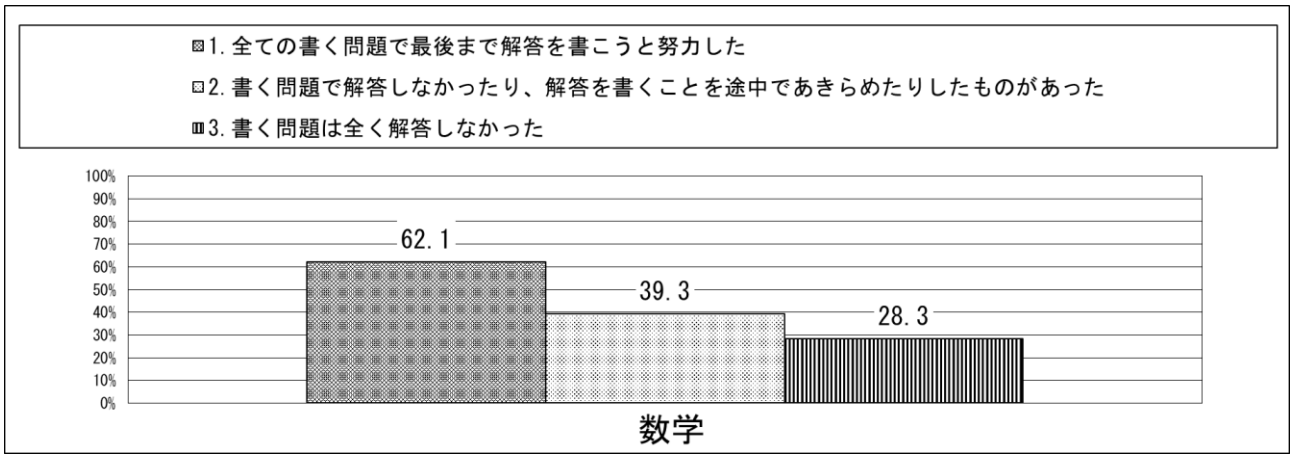




質問番号	質問事項
（数１）	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		生徒数	生徒数の割合（%）	平均正答率（%）	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	147	40.5	62.4	62.1
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	188	51.8	53.7	39.3
3	書く問題は全く解答しなかった	28	7.7	41.7	28.3
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		0	0.0	―	―
無回答		0	0.0	―	―
合計		363	100.0	56.3	47.7

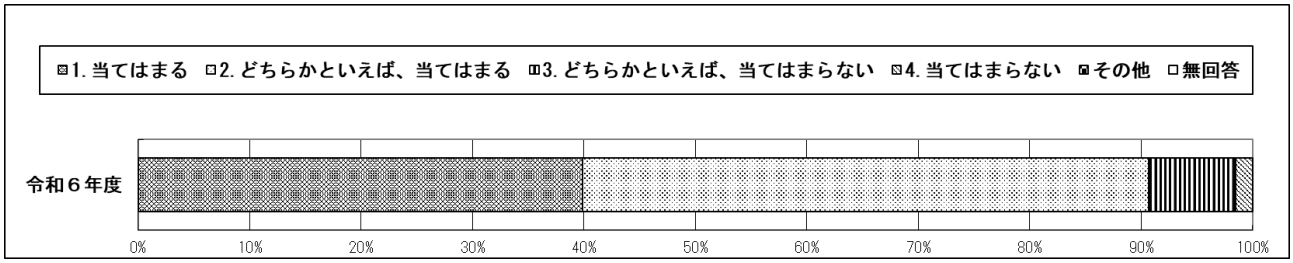




さらに「非認知能力」の一つ、他者との協働（他者とコミュニケーションできる力）との関係性については、【児童・生徒質問紙（３７）「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」】では、約９０％の児童・生徒がお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいることが伺えます。保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、さらに社会に出ても、さまざまな人と出会います。一緒に何かを作ったり、助け合ったりする機会もたくさんあります。そのような場面では、相手の気持ちを思いやりながら、行動することが求められます。また、自分の意見を求められる場合もあります。他者とコミュニケーションできる力は、今だけでなく、大人になってからも役立つ力になります。

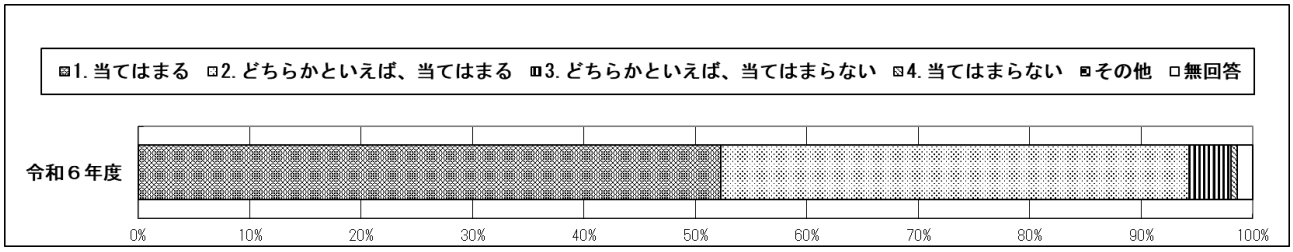
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（３７）	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	39.9	50.9	7.8	1.5				90.8			0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（３７）	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	52.3	42.0	3.8	0.5				94.3			0.0	1.4



これまでの結果から、学校教育においても非認知能力を伸ばす取り組みが必要です。そのためには、児童・生徒の内発的意欲を尊重することが重要になります。児童・生徒のやりたい！という気持ちを尊重しながら活動させることが大切であり、一方通行の指導ではなく、児童・生徒の一人ひとりが興味をもち、主体的に取り組めるような活動やしかけが求められます。

また、考える習慣を身に付けさせ、児童・生徒の想像力を養わせる必要があります。児童・生徒が自分で思考をめぐらせたり推測したりすることで、想像力は伸びていきます。児童・生徒の「なぜ？」に対して、すぐに答えを与えず、学級全体で考えるなど、友達や周りの人の考えを大切にし、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことができるような授業の組み立てが重要です。

さらに、結果だけではなく努力の過程を褒める（認める）ことで、児童・生徒は自己効力感や自信が高まります。先生が一人ひとりの児童・生徒に自信を持たせる言葉かけを継続的に行い、子供が挑戦したときに、結果だけでなく過程を振り返らせたり認めたりして、次につなげる意識を持たせることが大切です。

３　今後に向けて

～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

◇家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

◇学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと

これからも育んでいきたいこと

◇教室を離れても学び続ける子どもの姿を…

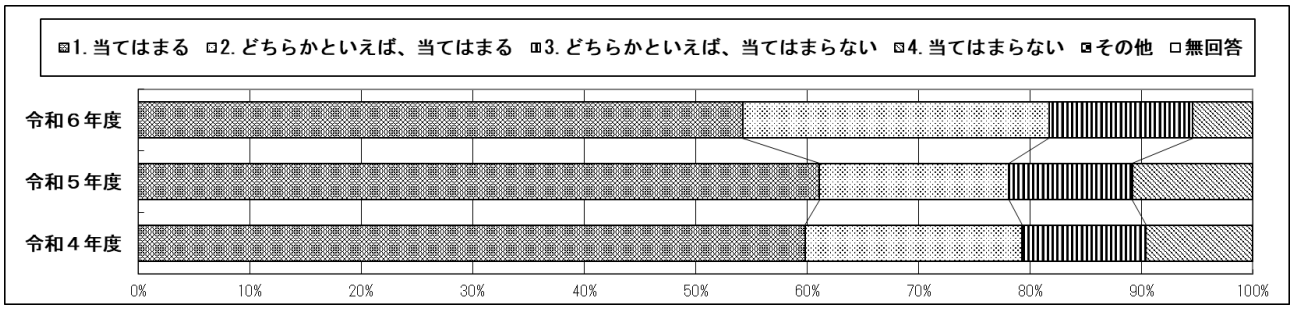
家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

◇家庭での会話で育んでいきたいこと

【児童・生徒質問紙（１１）「将来の夢や目標をもっている」】では、例年とほぼ変わらない割合の傾向が見られ、小学校では約２０％の児童が、中学校では約３５％の生徒が「どちらかといえば当てはまらない」又は「当てはまらない」と答えています。近年の社会は、グローバル化、情報化、少子化、高齢化等を背景に、社会構造の大きな変動期を迎えており、変化のスピードもこれまでになく速くなっています。変化の激しいこれからの社会において、一人ひとりの子どもたちがそれぞれの可能性を伸ばし、自立した個人として心豊かにたくましく生き抜いていく基礎を培うことが重要です。家庭での会話を通して、子どもが自分に自信をもち、物事に対して前向きな気持ちで取り組むことができるよう、他の子どもと比較するのではなく、その子が持っている個性やよさ、頑張りなどを認め、子どもの自尊心、自己肯定感を高められるような関わり方の継続が大切です。さらに、話す機会を確保することによって、現在の子どもたちの様子や状況について理解することができるとともに、「考えて、発信する」という場が必然的に生じます。家庭においても、話す機会と時間を確保して、児童・生徒にとっての思考力を伸ばしていくためにも、話す機会を大切にしてほしいと思います。

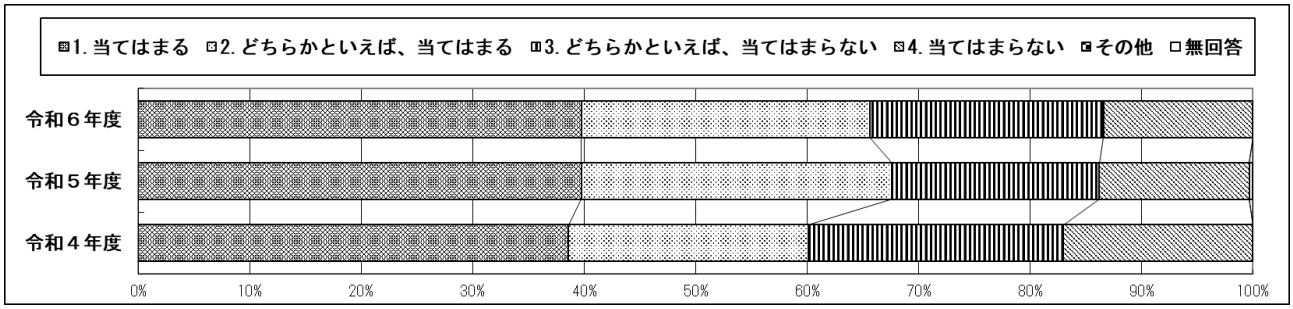
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（１１）	将来の夢や目標を持っていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	54.3	27.5	12.9	5.4				81.8			0.0	0.0
令和５年度	61.2	17.0	11.1	10.8				78.2			0.0	0.0
令和４年度	59.9	19.5	11.1	9.6				79.4			0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（１１）	将来の夢や目標を持っていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	39.8	25.9	21.0	13.4				65.7			0.0	0.0
令和５年度	39.8	27.9	18.6	13.5				67.7			0.0	0.3
令和４年度	38.6	21.5	22.9	17.0				60.1			0.0	0.0



学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

◇先生と児童・生徒との温かい関わりの中で、育まれていること

今年度の質問紙調査結果や日頃の小・中学校の様子から児童・生徒と先生の信頼関係の高さが見られます。これは寒川町の強みとして、今後も大切にしていきたいところです。

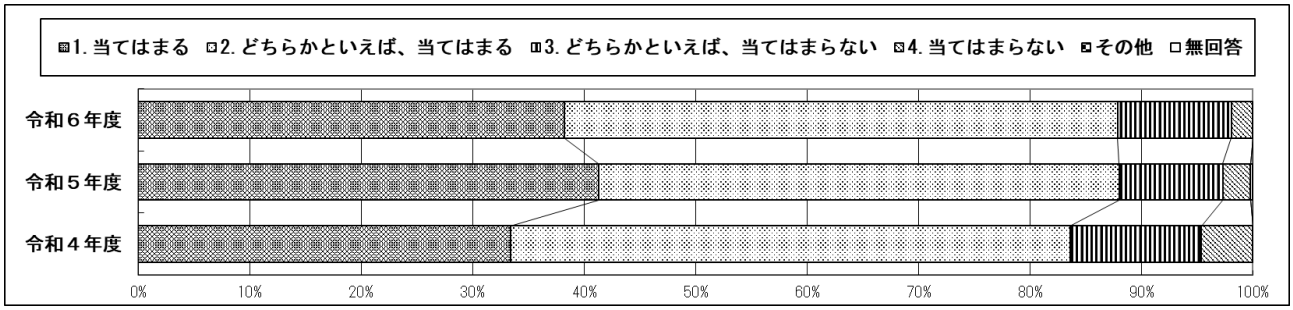
【児童生徒質問紙（１０）】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」からは、多くの児童・生徒が先生から認められていると感じていることがわかります。また、【児童生徒質問用紙（１４）】「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、小学校・中学校ともに全国平均よりも多くの児童・生徒が「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と答えています。このような信頼関係が素地となって、学級・学校での文化が育まれていきます。児童・生徒にとって、信頼関係がある中で、安心して学ぶことができるという基盤があることは重要なことです。そのような環境の中で、難しいことでも挑戦しようという気持ちが育まれている様子が伺えます。

そして、日頃から児童・生徒に声をかけて励ましたり、わかりやすい説明となるように工夫したりする教師の陰ながらの努力があります。このような日々の積み重ねによって、あきらめないで取り組むという姿勢が育まれていくと考えられます。教師が児童・生徒一人ひとりに対して、丁寧に関わることで、学習に対する意欲がわき、児童・生徒もあきらめずに取り組もうとする粘り強さが育まれていくと考えられます。教師の姿がまさに子どもの姿として表れています。

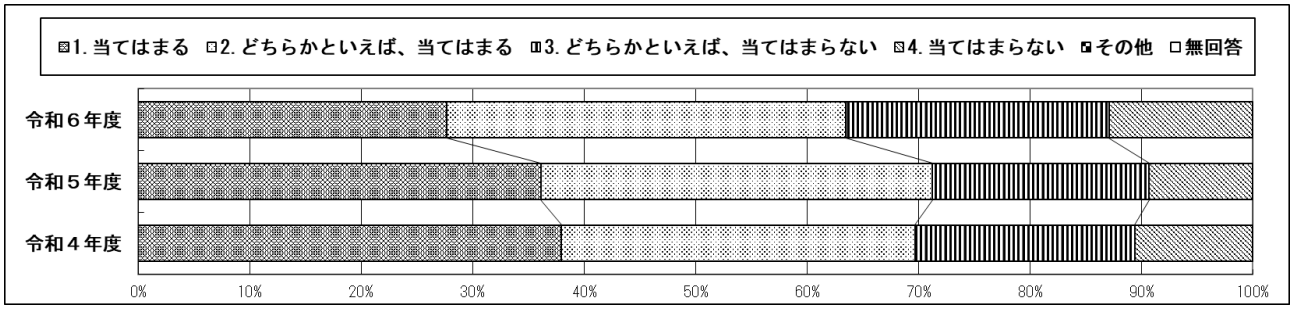
３つの育成すべき資質・能力における「学びに向かう力」が大切にしている側面に、粘り強さがあります。この「学びに向かう力」は、家庭と学校のしっかりとした生活の基盤があってこそ、育まれていくものです。家庭における規則正しい生活習慣の確立と、教師が児童・生徒一人ひとりに対して、温かく丁寧に接することによって、物事に対してあきらめない前向きな姿勢を育成していくことができると考えられます。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（１０）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	38.2	49.6	10.2	1.9				87.8			0.0	0.0
令和５年度	41.3	46.7	9.3	2.5				88.0			0.0	0.2
令和４年度	33.4	50.2	11.8	4.6				83.6			0.0	0.0

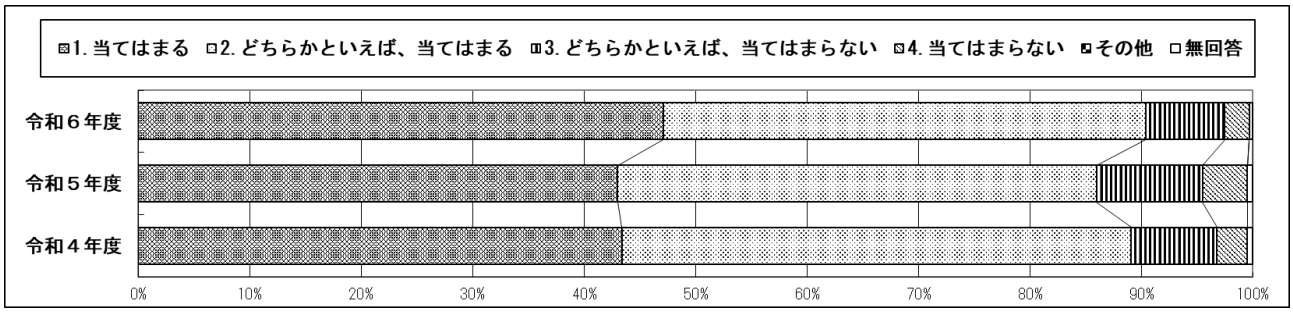


質問番号	質問事項											
（１４）	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	27.7	35.8	23.6	12.9				63.5			0.0	0.0
令和５年度	36.1	35.1	19.4	9.3				71.2			0.0	0.0
令和４年度	38.0	31.7	19.7	10.6				69.7			0.0	0.0

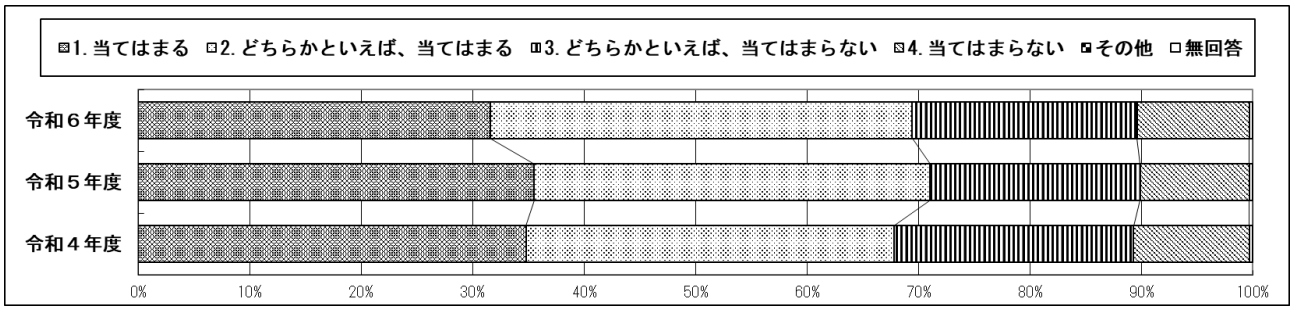


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（１０）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	47.1	43.3	7.1	2.2				90.4			0.0	0.3
令和５年度	43.0	43.0	9.5	4.0				86.0			0.0	0.5
令和４年度	43.4	45.7	7.7	2.7				89.1			0.0	0.5



質問番号	質問事項											
（１４）	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	31.6	37.9	20.2	10.1				69.5			0.0	0.3
令和５年度	35.5	35.5	18.8	9.8				71.0			0.0	0.3
令和４年度	34.8	33.0	21.5	10.4				67.8			0.0	0.3



主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、これからも育んでいきたいこと

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善においては、各校での継続的で熱心な取組が児童・生徒質問紙調査の結果に表れています。

寒川町の各小・中学校では、校内研究において児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ＩＣＴ機器を最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組んでいます。また、さむかわ学びっ子推進委員会において、各校の校内研究の様子や状況について、情報交換を通して、互いの学校に持ち帰って参考としながら、さらに研究を深めています。町内全小・中学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組むことができていることは、とても価値のあることです。教科調査の分析結果からは、各教科に共通して「情報を読み取る」「理由を記述する」「思考すること」「説明すること」に課題があることが見えてきました。「思考力・判断力・表現力等」を育んでいくためにも、「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を深めていくことが大切です。

しかしながら、我々が求めていることは「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が目的ではなく、寒川の子どもたちに育まれるべき、３つの資質・能力を育成することが目指すべきゴールとなります。「どんな子どもに育てていきたいか」を常日頃より意識し、よりよい授業づくりに向けて取り組む必要があります。

今後も、校内研究や学びっ子育成推進事業を柱として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組をさらに推進して、子どもたちの資質・能力を育むとともに、教師の授業力を向上させていきたいと考えています。

教室を離れても学び続ける子どもの姿を・・・

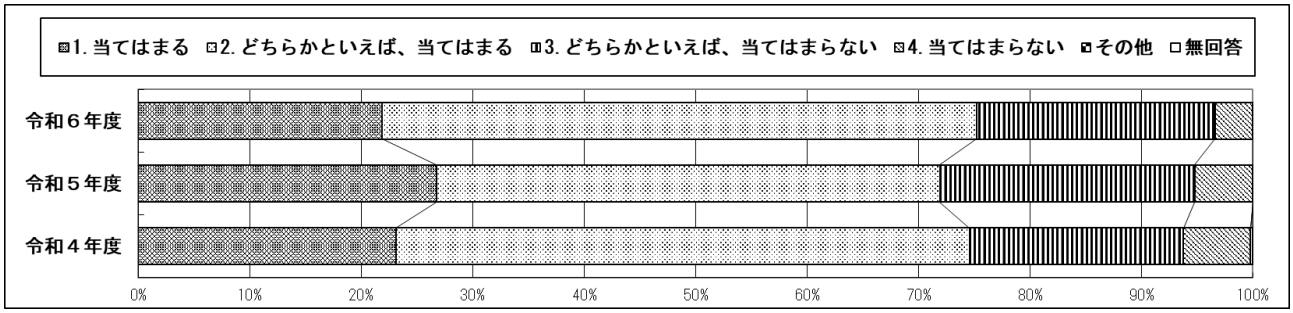
【児童・生徒質問紙（３４）「学習した内容について、わかった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」】では、「授業で学んだことを、次の学習に生かすことができる」、つまり学校での学びを振り返り、繋げるこ

とで、他の教科と関連づけたりしながら、活用していく姿がイメージできます。

今日、先を見通すことが難しい時代を生き抜くために、子どもたちには、「自分で課題を見つけ、対話をしたり新しい情報を取り入れたりする中で調整していく力」が必要となります。また、これから先、学習したことをどのように活用できるかが大事となってきます。学校では、単に知識を獲得するのではなく、学んだことを活用したり考えを伝え合ったり、さらにそこから自分の考えをまとめ、調整する学習を充実させ、「生きて働く知識」となるように努め、さらには「学びを教室という狭い空間」で完成させるのではなく、「教室を離れても学び続ける姿」を、意識しながら授業を創っていくことが必要であると考えます。家庭や地域でも、子どもたちのがんばりを認め、温かい言葉かけを行い、安心して様々な物事にチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

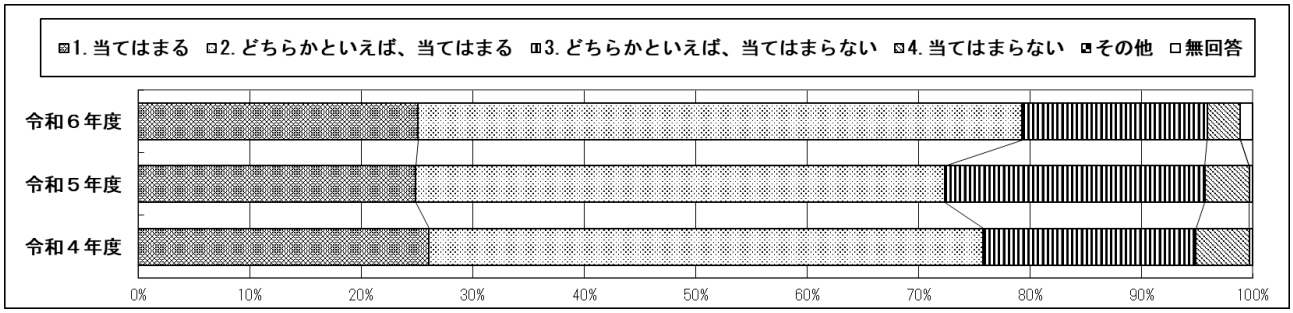
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
（３４）	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	21.9	53.3	21.4	3.4				75.2			0.0	0.0
令和５年度	26.8	45.2	22.9	5.2				72.0			0.0	0.0
令和４年度	23.1	51.4	19.2	6.0				74.5			0.0	0.2



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
（３４）	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	１０	その他	無回答
令和６年度	25.1	54.2	16.6	3.0				79.3			0.0	1.1
令和５年度	24.9	47.5	23.3	4.0				72.4			0.0	0.3
令和４年度	26.1	49.7	19.1	4.8				75.8			0.0	0.3



以上のように、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校においての授業改善の実現によって、寒川の子どもたちの資質・能力が少しずつですが、着実に積み上げられてきていることがわかります。学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために、これからも同じ方向を向いて、一緒に手を取り合って取り組むことが必要です。

今後も、それぞれの立場で適切な役割を果たしつつ、パートナーとして、未来の宝である「寒川の子どもたちのため」に連携、協力していきたいと思います。